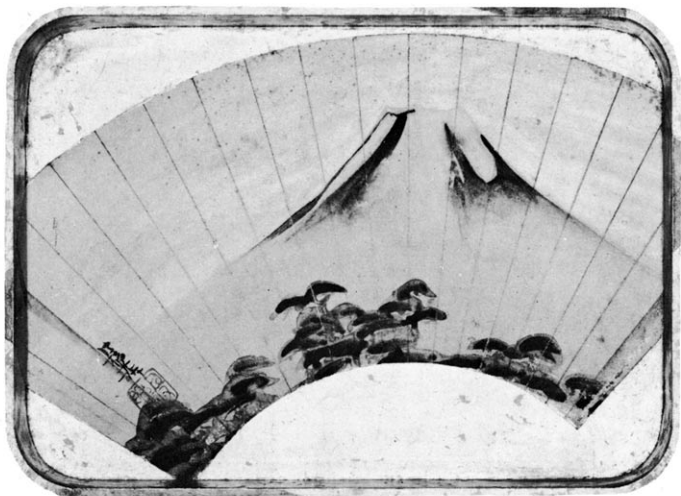




重要文化財 扇面貼交手篭・かけご 尾形光琳(1658-1716)筆 江戸時代

無声の詩 有声の絵

〈名品シリーズ4〉



かけごはこの篭の中に入っている

富士は日本の象徴である。古来万人に仰がれ、その秀麗な姿を嘆賞されてきたこの霊峰は、また多く画人の描くところとなった。

光琳は、従来理想化され、形式化された富士に、再び生命を与え、崇高にして壮大な山容をとり戻した。それは光悦、宗達によってはぐくまれ、光琳によって独自の完成をみたところの、自然に対する強烈な印象と、鋭い写実という、まったく相反する二要素の見事な統一であった。

この富士は、光琳芸術の極致を示すものとして有名な「扇面貼交手篭」のかけご(懸子)の中に貼りつけられた扇面画である。この手篭の、可憐な紅白菊団扇のついた蓋をとると、ぱっと富士山が現われ出る素晴らしさは、光琳ならではの大胆ですぐれた芸術的感覚を示すものであり、まさに日本美あふれ出る瞬間である。

季刊 美のたより No.4

昭和43年 1月1日

発行 大和文華館